

長浜企業 景況調査

報告書

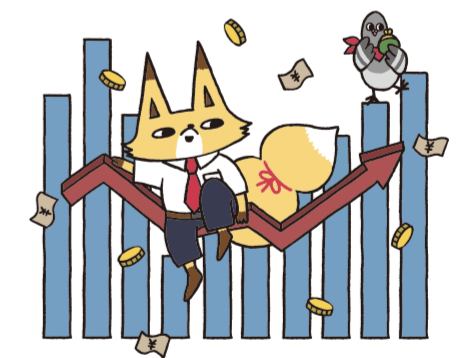


実績 2023年 7月～9月

見通し 2023年 10月～12月

今期のトピックス

- ① 原材料価格上昇の影響と対策
- ② 価格転嫁率について



アプリのご紹介

スマホやタブレットでご利用いただける、長浜商工会議所の専用アプリケーション“長浜商工会議所 News”をリリースいたしました！

発信した情報を「いち早く」「多くの方に」見ていただくことを目的に作成したアプリです。

補助金やセミナー・イベント情報等々、情報に更新があるとアプリに通知が届きます☆(要設定なので、ぜひプッシュ通知はONにしてください！)健康診断や検定試験などのご案内もございますので、代表や担当の方だけでなく、社員皆さままでご利用いただけたらと思います(^^)

■Android・タブレットをご利用の方→
Google Play ストアからダウンロード



■Iphone・ipad をご利用の方→
App Store からダウンロード



「長浜商工会議所」とご検索ください(^^)!



長浜商工会議所
NAGAHAMA Chamber of Commerce and Industry



コンテンツ

01 調査概要

05 業種ごとの動向
(卸売業・小売業・サービス業・建設業・製造業)

02 今期のトピックス

07 設備投資の有無

03 全体の景況感 (総括)

08 調査項目別 DI の推移

04 調査項目別 DI 値

10 その他業種別自由意見

04 業種別業況 DI の推移 (長期トレンド)

調査概要

長浜企業景況調査について

① 調査対象期間・調査時点

調査対象期間: 令和5年7月~9月
調査時点: 令和5年10月1日

② 調査方法

長浜商工会議所会員企業220社へのFAX方式
・メール方式による調査

③ 調査対象企業数

220社 (内訳は右表通り)

④ 報告者

中小企業診断士 川副 郷一郎

	調査対象企業数		有効回答企業数		回収率
	企業数	構成比	企業数	構成比	
卸売業	24	10.9%	19	14.3%	79.2%
小売業	40	18.2%	27	20.3%	67.5%
サービス業	70	31.8%	39	29.3%	55.7%
建設業	32	14.5%	17	12.8%	53.1%
製造業	54	24.5%	31	23.3%	57.4%
合計	220	100.0%	133	100.0%	60.5%

長浜企業景況調査の見方について

DI 指数について

- ① 調査結果を示す指数としてDI指数を採用しています。
- ② 調査項目のうち、「業況(自社)」「売上高」「採算(経常利益)」「資金繰り」「従業員」「販売価格」「仕入価格」「業界動向(同業他社)」「長・短期資金借入難易度」「受注動向(建設業)」「在庫量(製造業)」のDI指数は前年同期と比較しています。
- ③ 「取引の問合せ」と「採算の水準」のDI指数は前年同期比較ではなく調査対象期間の水準を評価した数値です。

DI 指数の見方について

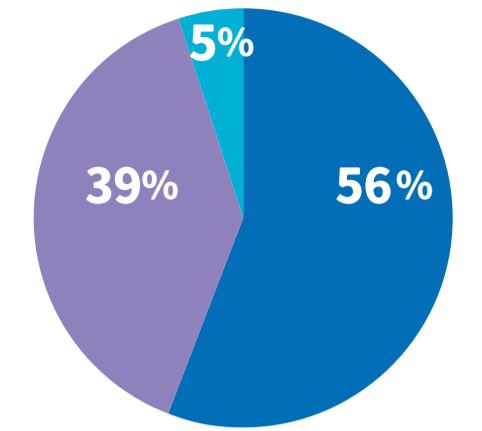
- ① DI指数がプラスであれば好調の企業数が不調の企業数を上回っていることを意味し、プラスの値が大きいほど「好調」の企業割合が多く「景気が良い」と判断されます。
- ② このDI指数を前期、今期、来期とグラフで示すと、その傾向を読み取ることができます。
- ③ 業況DIは経営者の景況感を反映しています。主観的な要素はありますが、売上高や収益動向で判断される傾向が強いです。
- ④ 資金繰りDIは概ね景気循環と連動していますが、政策の影響が景気の低迷期で認められています。
- ⑤ 小売業は売上高DI、卸売業は資金繰りDIに影響を与えることがあります。
- ⑥ 建設業は季節による影響が業況DIに認められています。これは公共工事との連動のためで1~3月期は総じて低調な傾向となります。

設備投資の見方について

- ① 好景気では「生産力増加」「合理化省力化」投資が増加し、景気の後退期では「設備更新」投資の割合が増える傾向にあります。

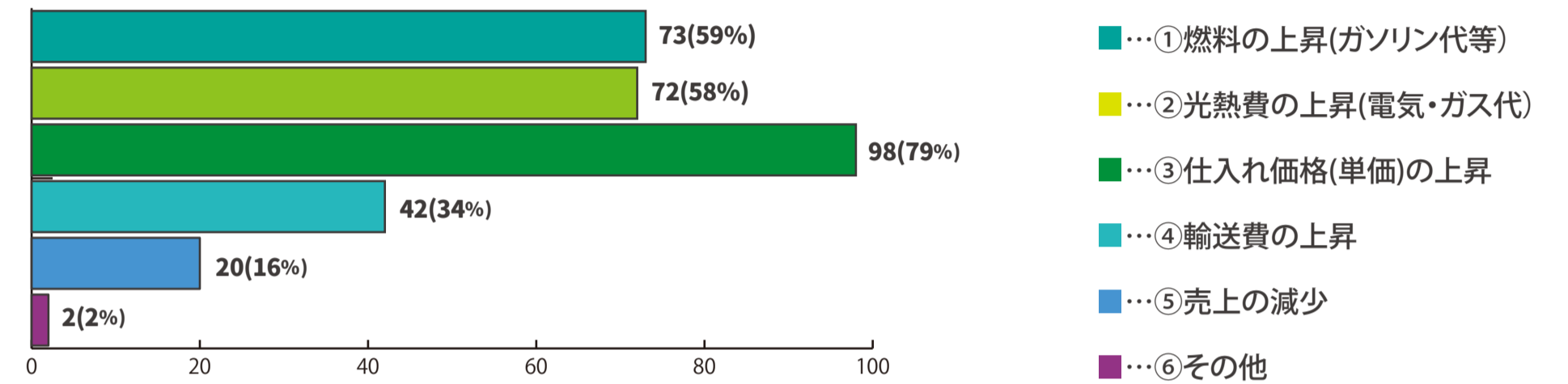
1. 原油等、原材料価格上昇の影響

	卸売業	小売業	サービス業	建設業	製造業	合計	割合
悪影響がある	9	20	17	10	17	73	56%
少し悪影響がある	10	7	15	6	13	51	39%
悪影響はない	0	0	7	0	0	7	5%
合計	19	27	39	16	30	131	



●…悪影響がある ●…少し悪影響がある ●…悪影響はない

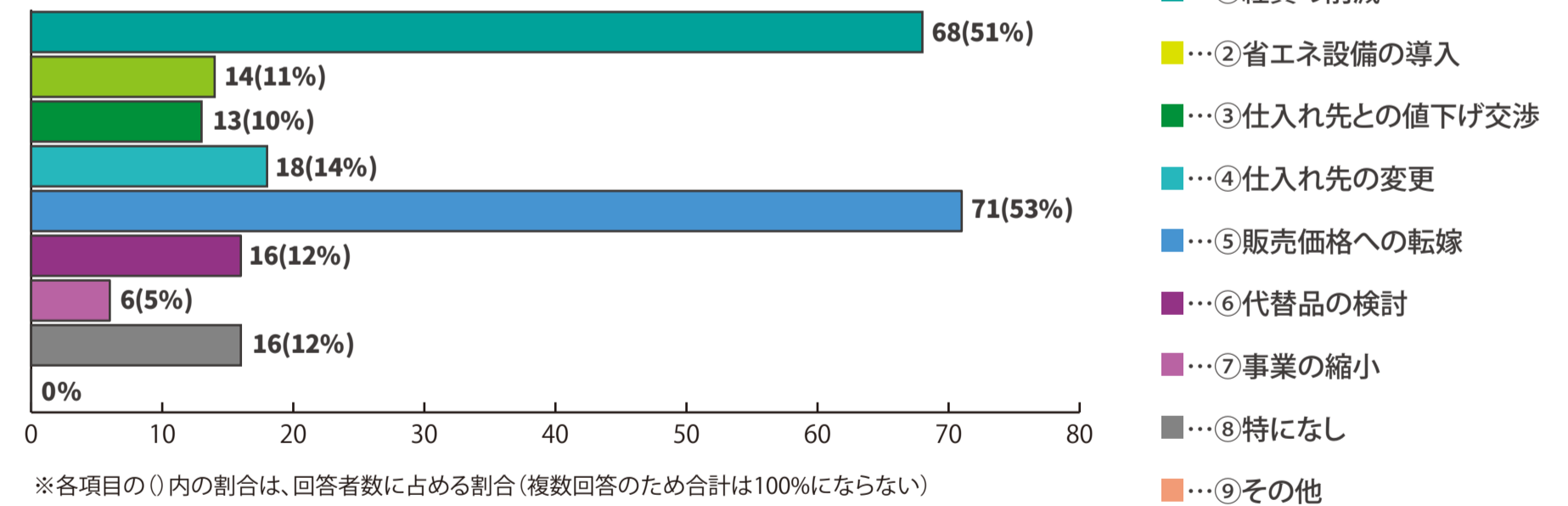
(1-2) 悪影響の内容について (複数回答あり、有効回答社数 124 社、回答数 307)



※各項目の()内の割合は、回答者数に占める割合(複数回答のため合計は100%にならない)

R.4-6月期は若干改善がみられたが、R7-9月期は「悪影響がある」46%→56%、「少し悪影響がある」46%→39%と再び悪化の傾向がみられる。悪影響の内容は、「③仕入れ価格の上昇」が最も多く、次いで「①燃料の上昇」、「②光熱費の上昇」の順に多くなった。

2. 原油等・原材料価格上昇の対策について (複数回答あり、有効回答社数 133 社、回答数 222)



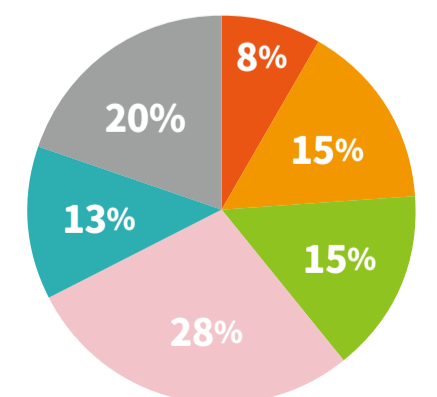
※各項目の()内の割合は、回答者数に占める割合(複数回答のため合計は100%にならない)

(2-2) 仕入単価上昇分の販売単価への転嫁について (問1にて「⑤販売価格の転嫁」と回答した企業が対象)

「①経費の削減」、「⑤販売価格の転嫁」を対策として実施している企業が多いが、小売業、サービス業では転嫁が困難、一方、製造業は比較的転嫁率が良い状況が窺える。

	卸売業	小売業	サービス業	建設業	製造業	合計
①100%転嫁	1	1	1	2	1	6
②80~99%転嫁	2	3	0	1	5	11
③60~79%転嫁	2	1	0	2	6	11
④40~59%転嫁	4	1	7	2	6	20
⑤20~39%転嫁	0	2	5	1	1	9
⑥1~19%転嫁	3	5	3	2	1	14
合計	12	13	16	10	20	71

●…①100%転嫁
●…②80~99%転嫁
●…③60~79%転嫁
●…④40~59%転嫁
●…⑤20~39%転嫁
●…⑥1~19%転嫁



全体の景況感（総括）

「景況感は緩やかな回復トレンドにあるものの、業況DIは4期ぶりに低下」

全体の業況DIは、前期（2023年4－6月期）の13.8から今期はもちあい（0.0）と4期ぶりに低下しました。売上高DIが6.1と前期比9.9ポイント低下し、採算（経常利益）DIが▲10.0と同4.7ポイント低下したためと考えられます。来期（2023年10－12月期）の業況DIは2.3で再び上昇する見通しとなっています。

新型コロナが5類に移行したことで観光消費の増加による駆け込み需要が見られたものの、物価の高騰や猛暑で盛り上がりを欠きました。一方、半導体不足が解消したものの中国を中心とした海外経済の停滞は生産面に影響しました。従業員DIは、製造業で不足感が大幅に緩和しましたが、建設業とサービス業では強まり卸売業と小売業はほぼ横ばいでした。

一方、同時に実施した「設備投資の計画状況」調査によると、設備投資計画が「ある」と答えた企業の割合はやや増加し25.8%でした。投資内容では、景気回復期に強まる「生産力増加」投資と「合理化・省力化」投資の合計が全体で55.9%と15.3ポイント増加しました。

業況DIと売上高DIがすべての業種で低下

業種別の業況DIでは、低下幅の大きい順に卸売業、小売業、製造業、サービス業、建設業となりました。売上高DIにおいても全ての業種で低下しました。卸売業では、売上高DIおよび採算の水準DIが2期連続で低下、採算DIは3期ぶりにマイナスとなり業況は大幅に悪化しました。小売業は、売上高DIは低下しましたがプラスを維持、採算DIおよび採算の水準DIがともに低下しました。サービス業は、売上高DIが低下しましたが採算DIおよび採算の水準DIがともに上昇しました。建設業は、売上高DIは低下しましたがプラスを維持、採算DIおよび採算の水準DIがともに低下しました。製造業の在庫量DIが大幅に上昇しコロナ禍以降最も高くなりました。生産調整が必要な局面にあると考えられます。従業員DIは前期比29.4ポイント上昇、不足感が大幅に緩和されました。

来期の業況DIは、サービス業および小売業は上昇、建設業および製造業は横ばい、卸売業はさらに低下する見通しです。

価格転嫁は進んでいるが、採算DIは業種でばらつきが見られる

全体の販売価格DIは前期43.1から今期51.9へ上昇しました。業種別では、卸売業がやや低下しましたが、他の4業種は上昇しました。一方、全体の仕入れ価格DIは、前期74.2から今期71.9へ低下し、来期はさらに低下する見通しとなりました。業種別では、卸売業、小売業、製造業で低下しましたが、建設業、サービス業では上昇しました。

価格転嫁の推移を「販売価格DI－仕入れ価格DI」（乖離幅）で見ると、今期はすべての業種で上昇し価格転嫁が進みました。仕入れ価格DIが上昇し始めた2021年1－3月期以降の乖離幅は、卸売業がピーク時のほぼ1/5（今期▲5.6）、同様に小売業1/4（▲11.1）、製造業1/3（▲22.5）、建設業1/2（▲25.0）、サービス業1/2（▲27.8）という進捗です。

一方、採算DIは卸売業、建設業、小売業が前期比低下するなか製造業とサービス業は上昇しましたが、サービス業のみプラス圏で他の4業種はマイナス圏となりました。

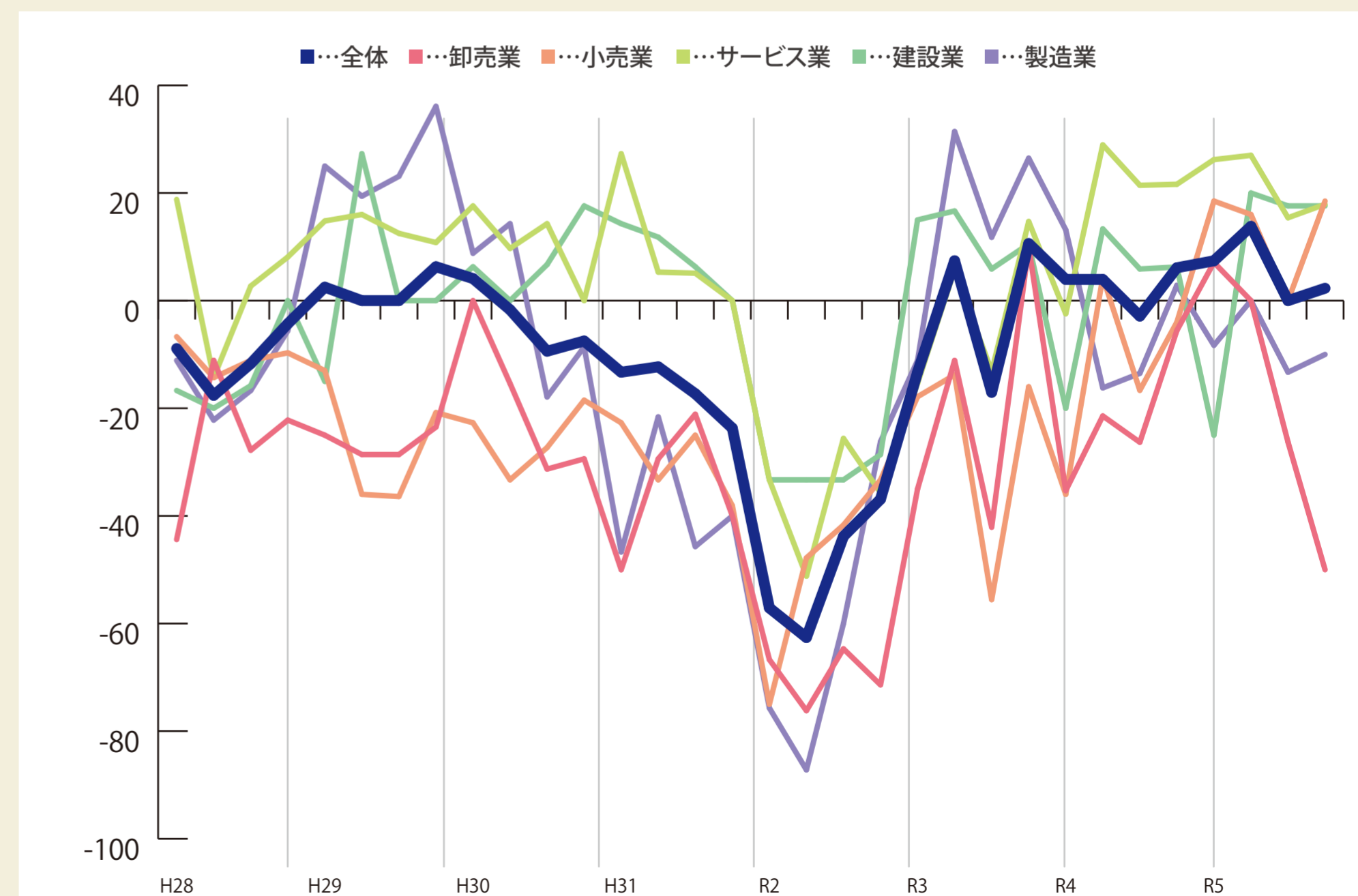
価格転嫁は着実に進んでいますが、採算DIは業種でばらつきが見られ、仕入れ価格や原材料価格の上昇に加え各種経費の上昇が続く中で、価格転嫁と生産性向上を同時に行う難しい経営努力が窺われます。

（中小企業診断士 川副 郷一郎）

調査項目別 DI 値

	R4.7-9	R4.10-12	R5.1-3	R5.4-6	R5.7-9	R5.10-12 見通し
業況	▲ 2.9	6.1	7.4	13.8	0.0	2.3
売上高	2.9	10.0	10.4	16.0	6.1	2.3
採算(経常利益)	▲ 15.8	▲ 13.1	▲ 3.7	▲ 5.3	▲ 10.0	▲ 12.8
資金繰り	▲ 9.4	▲ 8.6	▲ 3.7	0.8	▲ 2.3	▲ 5.3
従業員	▲ 21.6	▲ 29.7	▲ 26.9	▲ 28.8	▲ 23.7	▲ 29.5
取引の問い合わせ	▲ 10.1	0.8	4.5	▲ 0.8	▲ 10.1	▲ 4.7
採算の水準	1.4	9.2	17.0	12.5	5.3	11.5
販売価格	47.4	48.5	43.0	43.1	51.9	46.2
仕入れ価格	77.9	77.0	80.3	74.2	71.9	66.2
業界動向	▲ 12.6	▲ 12.0	▲ 7.0	▲ 8.1	▲ 20.2	▲ 18.6
借入難易度(長期)	3.0	3.2	4.7	0.8	▲ 3.2	▲ 2.4
借入難易度(短期)	1.5	4.0	9.3	1.6	4.1	3.3
受注動向(建設業)	11.8	▲ 6.7	▲ 33.3	5.3	6.3	▲ 11.8
在庫量(製造業)	12.9	23.3	13.3	▲ 3.8	19.2	7.7

業種別業況 DI の推移（長期トレンド）



※R5.10-12のDIは見通し

業種ごとの動向（卸売業・小売業・サービス業・建設業）

業況の動き アイコンの説明

▲ 前期の業況DI値から
+1以上

▶ 前期の業況DI値から
+1未満▲1超

▼ 前期の業況DI値から
▲1以下

※全国の業況DI...
「中小企業業況調査」
(中小企業庁)結果より

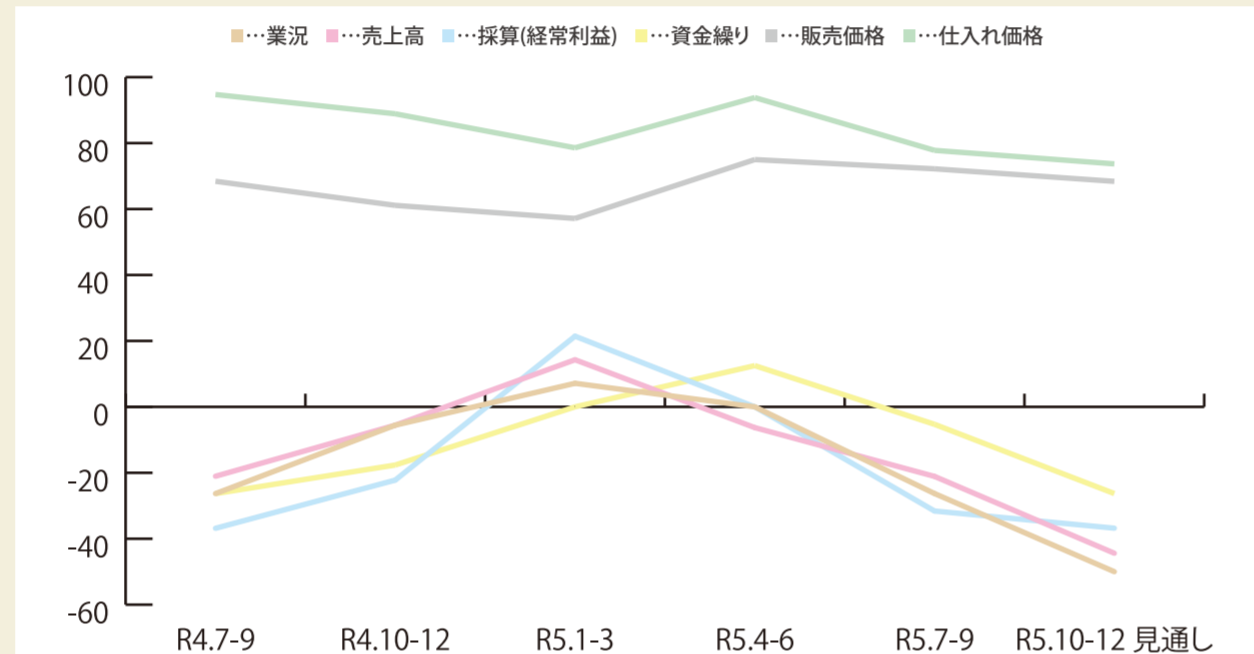
卸売業

業況の動き (3ヶ月前比較)

全国 ▲9.3 → ▲7.3

長浜 0.0 → ▲26.3

	R4.7-9	R4.10-12	R5.1-3	R5.4-6	R5.7-9	R5.10-12 見通し
業況	▲26.3	▲5.6	7.1	0.0	▲26.3	▲50.0
売上高	▲21.1	▲5.6	14.3	▲6.3	▲21.1	▲44.4
採算(経常利益)	▲36.8	▲22.2	21.4	0.0	▲31.6	▲36.8
資金繰り	▲26.3	▲17.6	0.0	12.5	▲5.3	▲26.3
販売価格	68.4	61.1	57.1	75.0	72.2	68.4
仕入れ価格	94.7	88.9	78.6	93.8	77.8	73.7



事業者の声

好転

- 販売価格の上昇に伴い利益額が微増。

悪化

- 原材料上昇分を売上へ転嫁は難しい。
- 仕入先の事業譲渡又は廃業により商品仕入が困難に。

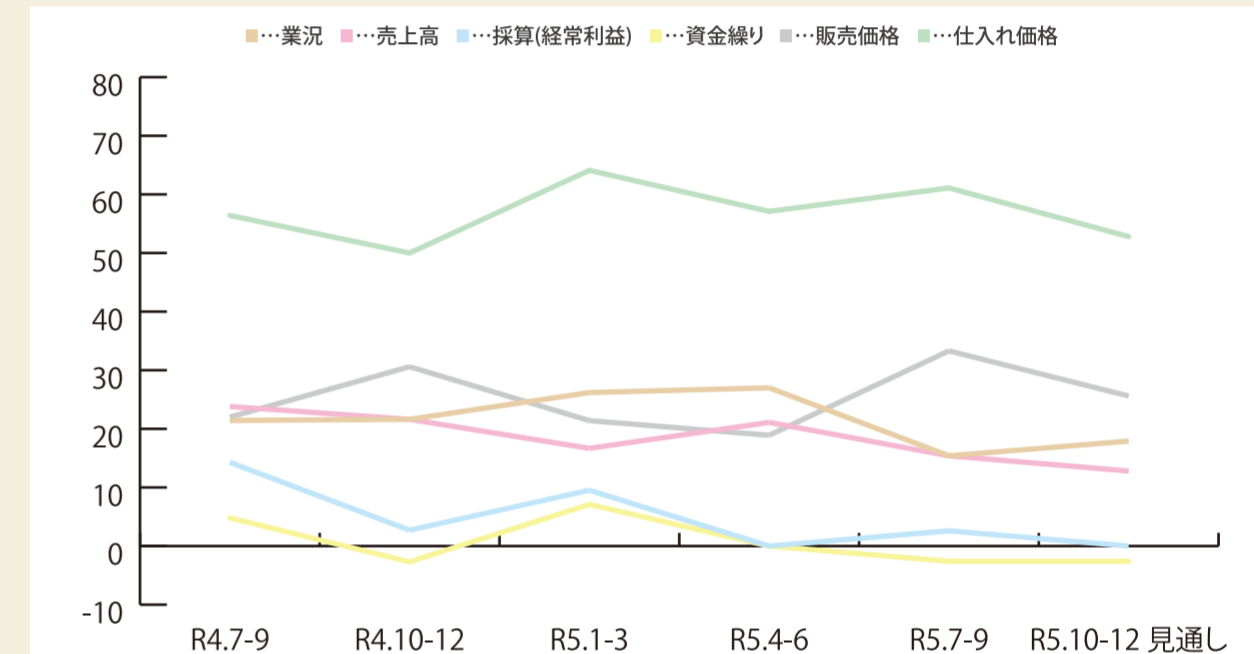
サービス業

業況の動き (3ヶ月前比較)

全国 ▲4.0 → ▲6.3

長浜 27.0 → 15.4

	R4.7-9	R4.10-12	R5.1-3	R5.4-6	R5.7-9	R5.10-12 見通し
業況	21.4	21.6	26.2	27.0	15.4	17.9
売上高	23.8	21.6	16.7	21.1	15.4	12.8
採算(経常利益)	14.3	2.7	9.5	0.0	2.6	0.0
資金繰り	4.8	▲2.7	7.1	0.0	▲2.6	▲2.6
販売価格	22.0	30.6	21.4	18.9	33.3	25.6
仕入れ価格	56.4	50.0	64.1	57.1	61.1	52.8



事業者の声

好転

- 客単価が上昇した。
- コロナの影響が緩和した。

悪化

- 原材料の高騰。
- 資金繰りの悪化。

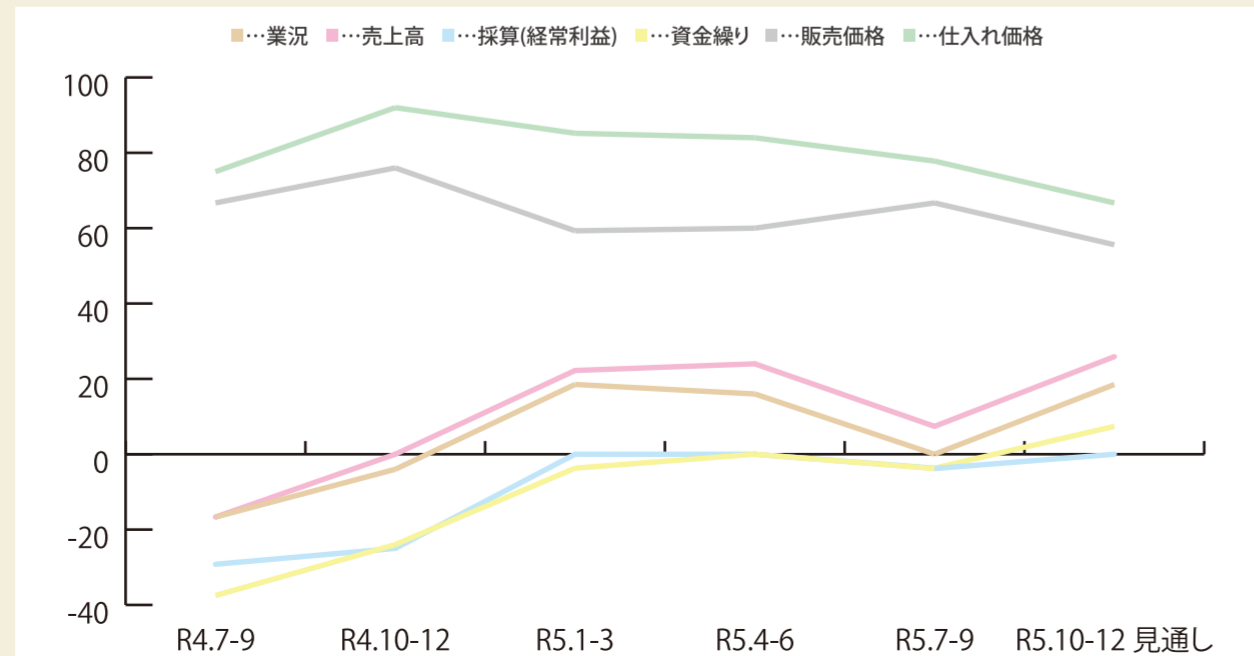
小売業

業況の動き (3ヶ月前比較)

全国 ▲22.1 → ▲21.7

長浜 16.0 → 0.0

	R4.7-9	R4.10-12	R5.1-3	R5.4-6	R5.7-6	R5.10-12 見通し
業況	▲16.7	▲4.0	18.5	16.0	0.0	18.5
売上高	▲16.7	0.0	22.2	24.0	7.4	25.9
採算(経常利益)	▲37.5	▲24.0	▲3.7	0.0	▲3.8	0.0
資金繰り	▲29.2	▲25.0	0.0	0.0	▲3.7	7.4
販売価格	66.7	76.0	59.3	60.0	66.7	55.6
仕入れ価格	75.0	92.0	85.2	84.0	77.8	66.7



事業者の声

好転

- ふるさと納税がはやい時期から好調推移。

悪化

- 物価上昇による消費の冷え込みを感じる。
- 価格の上昇は店舗、直販においても影響大。

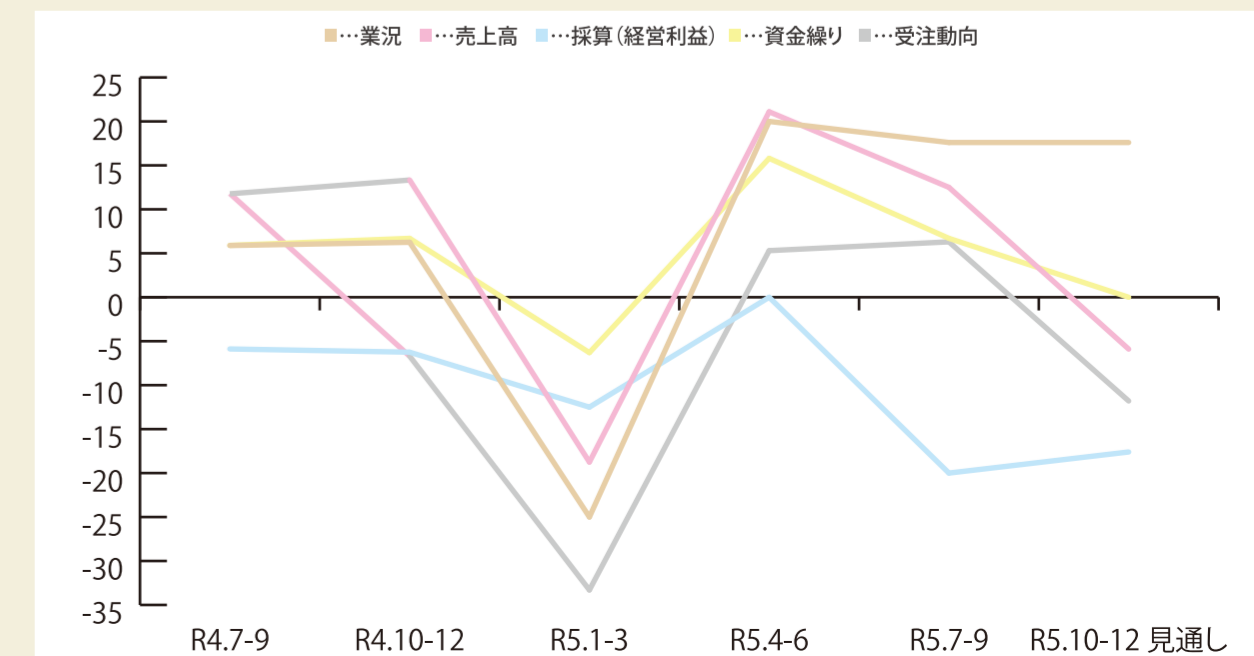
建設業

業況の動き (3ヶ月前比較)

全国 ▲9.0 → ▲10.6

長浜 20.0 → 17.6

	R4.7-9	R4.10-12	R5.1-3	R5.4-6	R5.7-9	R5.10-12 見通し
業況	5.9	6.3	▲25.0	20.0	17.6	17.6
売上高	11.8	13.3	▲18.8	21.1	12.5	▲5.9
採算(経常利益)	▲5.9	▲6.3	▲12.5	0.0	▲20.0	▲17.6
資金繰り	5.9	6.7	▲6.3	15.8	6.7	0.0
受注動向	11.8	▲6.7	▲33.3	5.3	6.3	▲11.8



事業者の声

好転

- コロナの影響緩和により民間の設備投資や官公庁物件が増加。

悪化

- 材料高騰による採算の悪化が深刻。
- 原材料等の上昇が全て販価には転嫁できない。

業種ごとの動向（製造業）

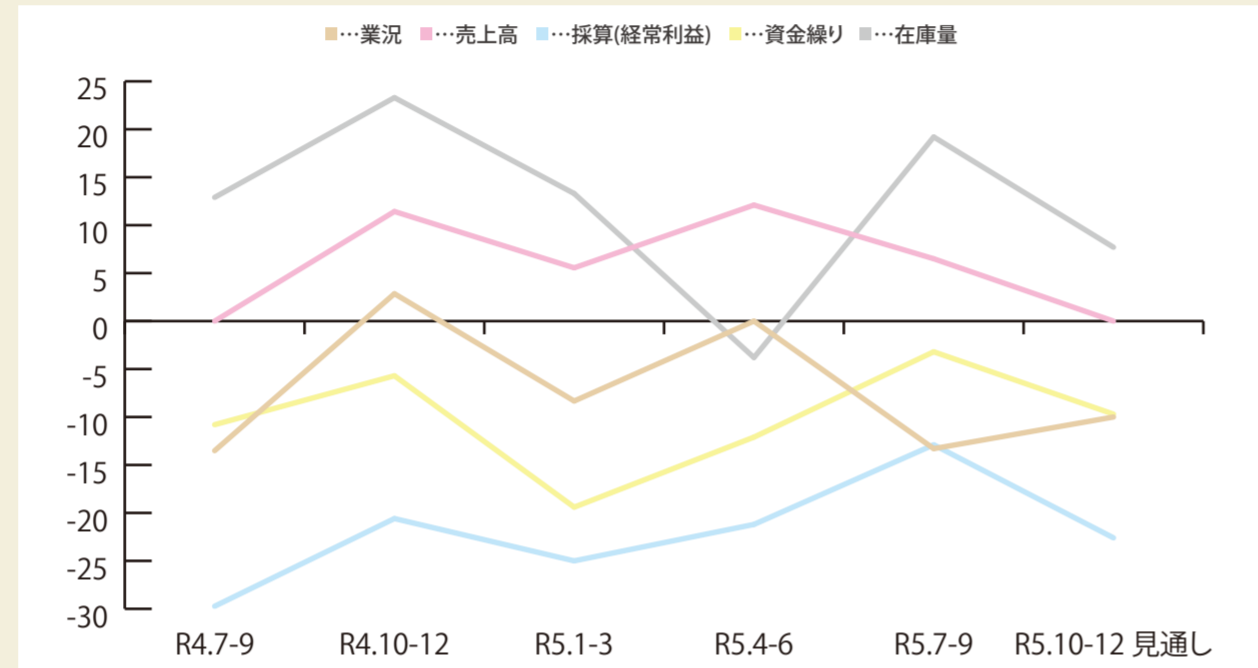
業況の動き（3ヶ月前比較）

製造業

全国 業況 DI ▲10.4 → ▲13.5

長浜 業況 DI 0.0 → ▲13.3

	R4.7-9	R4.10-12	R5.1-3	R5.4-6	R5.7-9	R5.10-12 見通し
業況	▲13.5	2.9	▲8.3	0.0	▲13.3	▲10.0
売上高	0.0	11.4	5.6	12.1	6.5	0.0
採算(経常利益)	▲29.7	▲20.6	▲25.0	▲21.2	▲12.9	▲22.6
資金繰り	▲10.8	▲5.7	▲19.4	▲12.1	▲3.2	▲9.7
在庫量	12.9	23.3	13.3	▲3.8	19.2	7.7



事業者の声

好転

- 受注増と販売価格上昇で採算が改善。
- 価格交渉が寄与して売上増加。

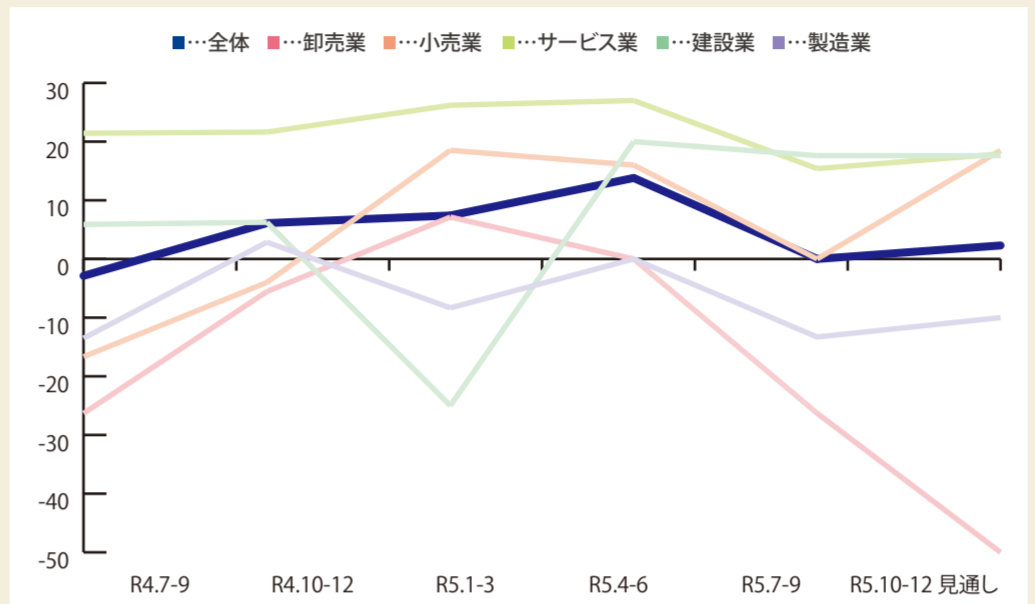
悪化

- 半導体関係が依然不調。
- 最低賃金の引き上げによる人件費の上昇。
- 光熱費の高騰。
- 欧州の景気低迷、北米の減速等の影響が出てきている。

調査項目別 DI の推移①

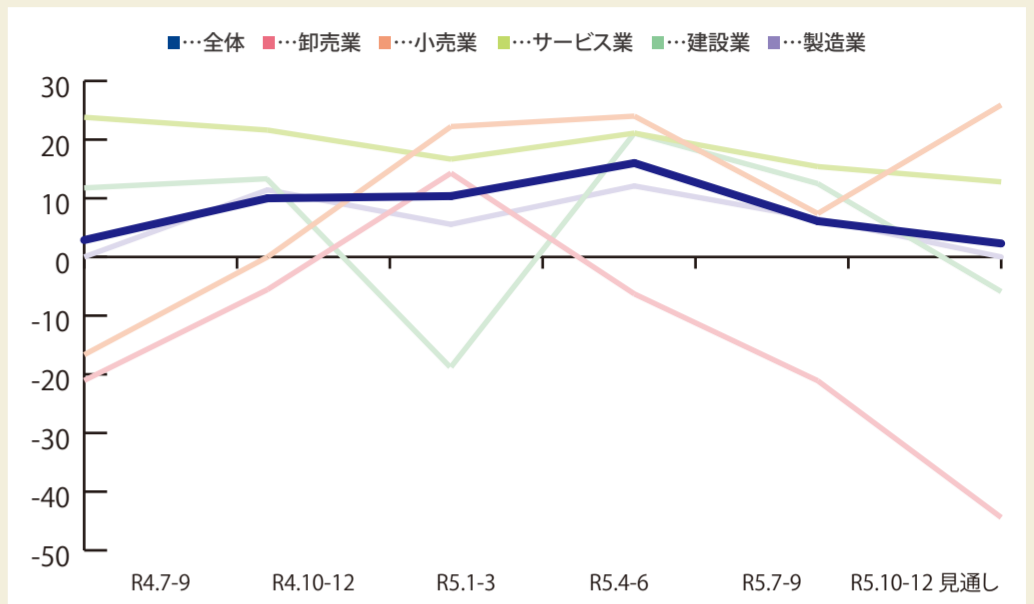
業況（好転-悪化）

	R4.7-9	R4.10-12	R5.1-3	R5.4-6	R5.7-9	R5.10-12 見通し
全体	▲2.9	6.1	7.4	13.8	0.0	2.3
卸売業	▲26.3	▲5.6	7.1	0.0	▲26.3	▲50.0
小売業	▲16.7	▲4.0	18.5	16.0	0.0	18.5
サービス業	21.4	21.6	26.2	27.0	15.4	17.9
建設業	5.9	6.3	▲25.0	20.0	17.6	17.6
製造業	▲13.5	2.9	▲8.3	0.0	▲13.3	▲10.0



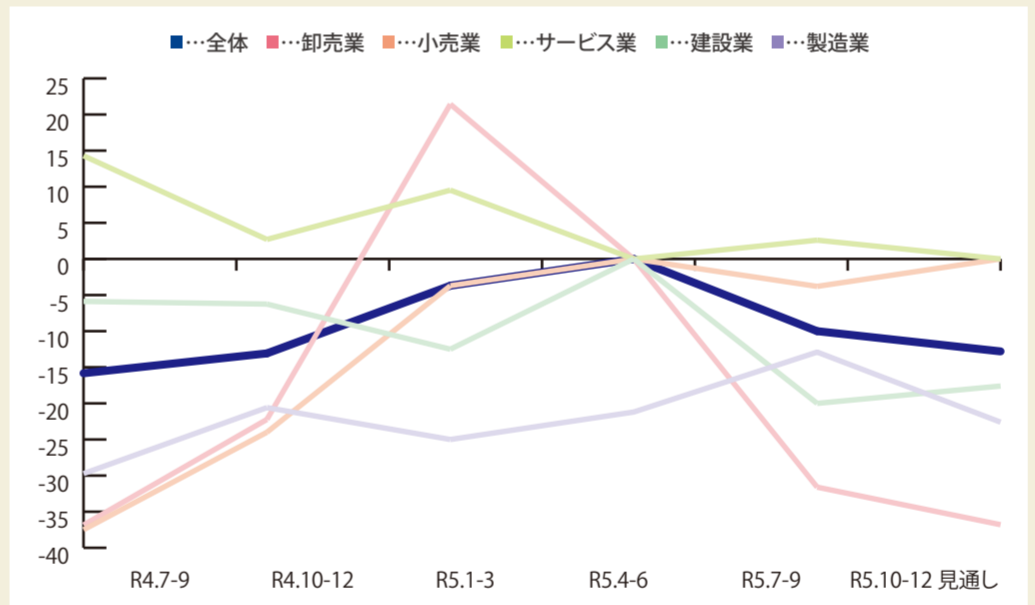
売上高（増加-減少）

	R4.7-9	R4.10-12	R5.1-3	R5.4-6	R5.7-9	R5.10-12 見通し
全体	2.9	10.0	10.4	16.0	6.1	2.3
卸売業	▲21.1	▲5.6	14.3	▲6.3	▲21.1	▲44.4
小売業	▲16.7	0.0	22.2	24.0	7.4	25.9
サービス業	23.8	21.6	16.7	21.1	15.4	12.8
建設業	11.8	13.3	▲18.8	21.1	12.5	▲5.9
製造業	0.0	11.4	5.6	12.1	6.5	0.0



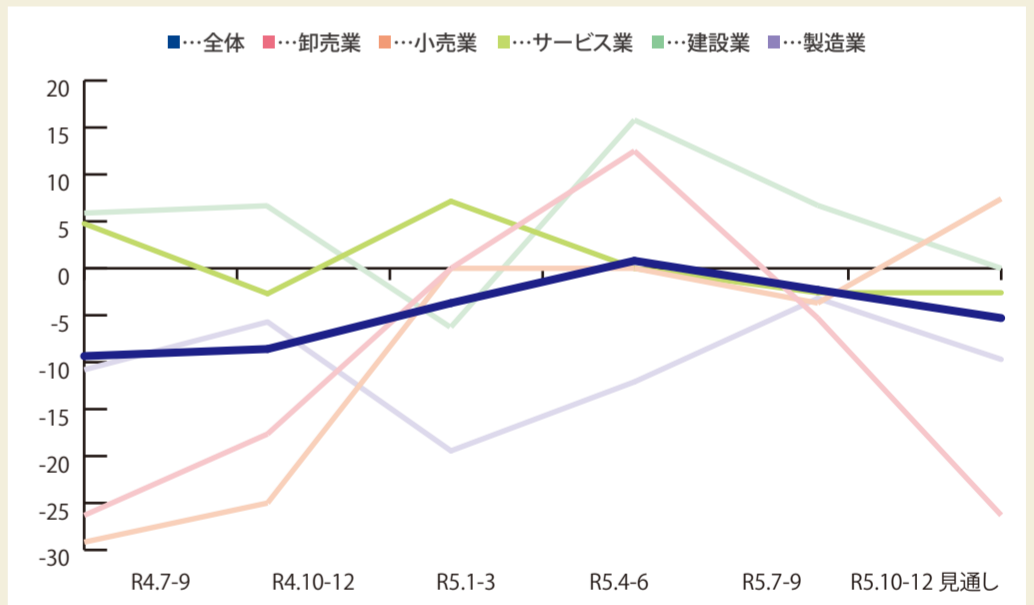
採算（好転-悪化）

	R4.7-9	R4.10-12	R5.1-3	R5.4-6	R5.7-9	R5.10-12 見通し
全体	▲15.8	▲13.1	▲3.7	0.0	▲10.0	▲12.8
卸売業	▲36.8	▲22.2	21.4	0.0	▲31.6	▲36.8
小売業	▲37.5	▲24.0	▲3.7	0.0	▲3.8	0.0
サービス業	14.3	2.7	9.5	0.0	2.6	0.0
建設業	▲5.9	▲6.3	▲12.5	0.0	▲20.0	▲17.6
製造業	▲29.7	▲20.6	▲25.0	▲21.2	▲12.9	▲22.6



資金繰り（好転-悪化）

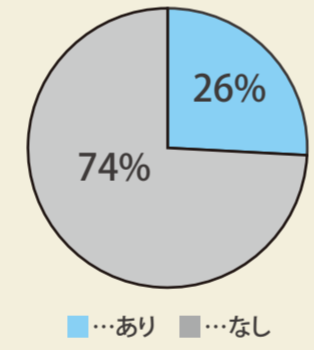
	R4.7-9	R4.10-12	R5.1-3	R5.4-6	R5.7-9	R5.10-12 見通し
全体	▲9.4	▲8.6	▲3.7	0.8	▲2.3	▲5.3
卸売業	▲26.3	▲17.6	0.0	12.5	▲5.3	▲26.3
小売業	▲29.2	▲25.0	0.0	0.0	▲3.7	7.4
サービス業	4.8	▲2.7	7.1	0.0	▲2.6	▲2.6
建設業	5.9	6.7	▲6.3	15.8	6.7	0.0
製造業	▲10.8	▲5.7	▲19.4	▲12.1	▲3.2	▲9.7



設備投資の有無

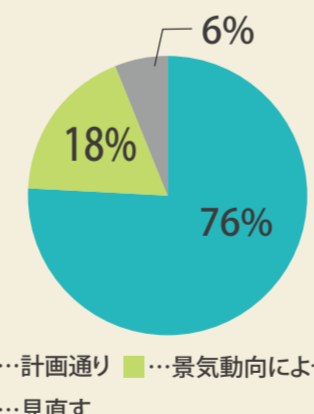
① 設備投資の有無

	卸売業	小売業	サービス業	建設業	製造業	合計
あり	6	2	5	6	15	34
なし	13	25	34	10	16	98



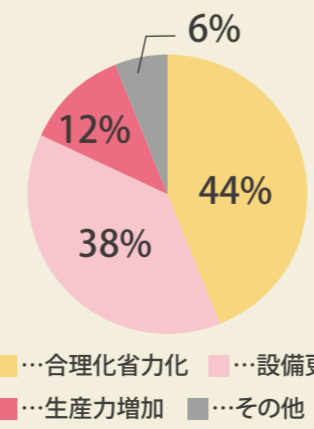
② ①で「あり」と答えた場合、計画の実行について

	卸売業	小売業	サービス業	建設業	製造業	合計
計画通り	5	1	4	6	10	26
景気動向によって見直す	1	1	1	0	3	6
見直す	0	0	0	0	2	2



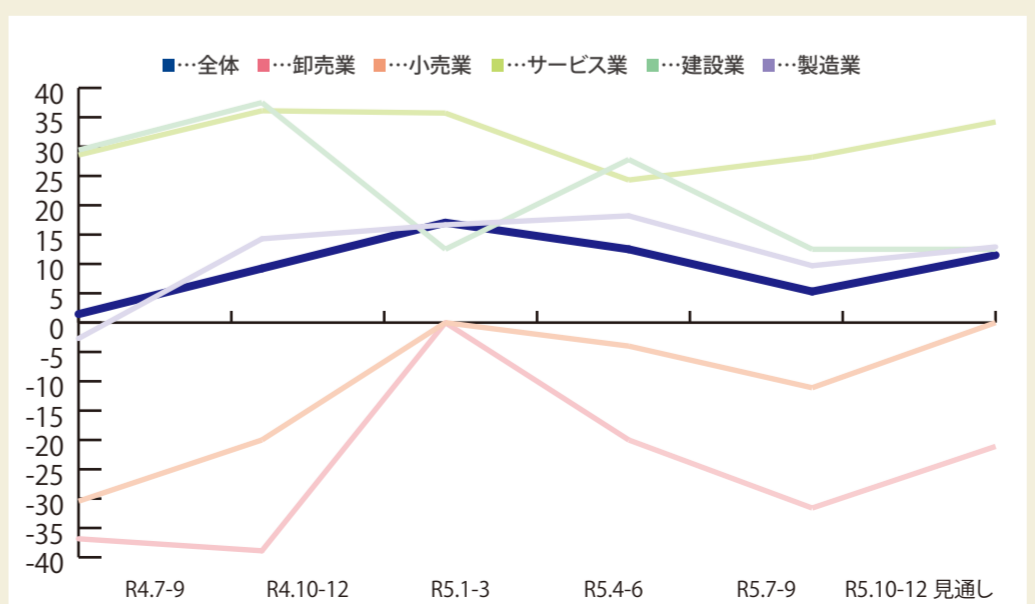
③ ①で「あり」と答えた場合、計画の内容について

	卸売業	小売業	サービス業	建設業	製造業	合計
合理化省力化	3	1	1	3	7	15
設備更新	3	0	1	2	7	13
生産力増加	0	1	2	0	1	4
その他	0	0	1	1	0	2



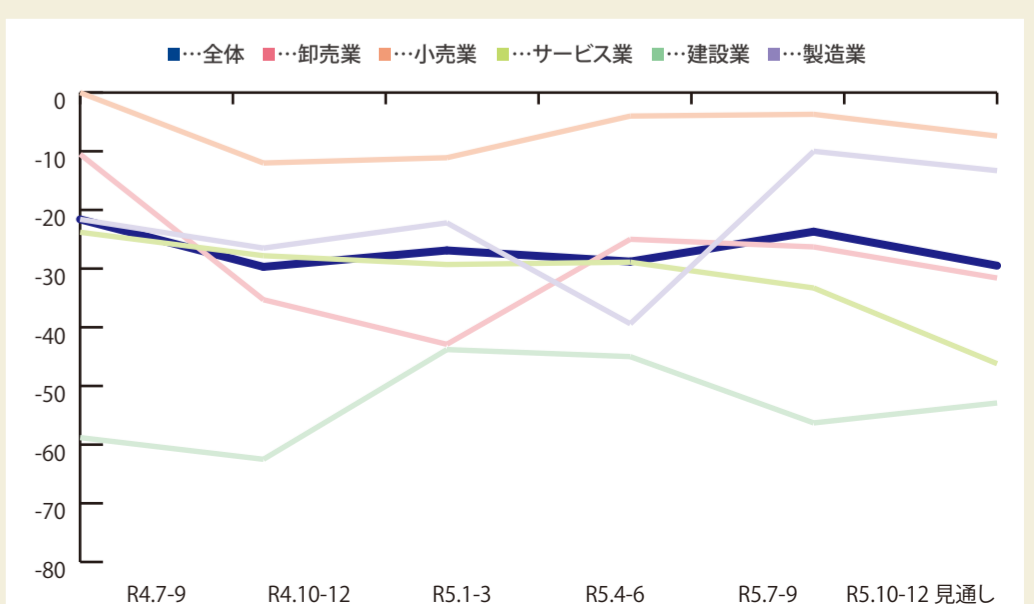
採算の水準（黒字-赤字）

	R4.7-9	R4.10-12	R5.1-3	R5.4-6	R5.7-9	R5.10-12 見通し
全体	1.4	9.2	17.0	12.5	5.3	11.5
卸売業	▲36.8	▲38.9	0.0	▲20.0	▲31.6	▲21.1
小売業	▲30.4	▲20.0	0.0	▲4.0	▲11.1	0.0
サービス業	28.6	36.1	35.7	24.3	28.2	34.2
建設業	29.4	37.5	12.5	27.8	12.5	12.5
製造業	▲2.7	14.3	16.7	18.2	9.7	12.9



従業員（過剰-不足）

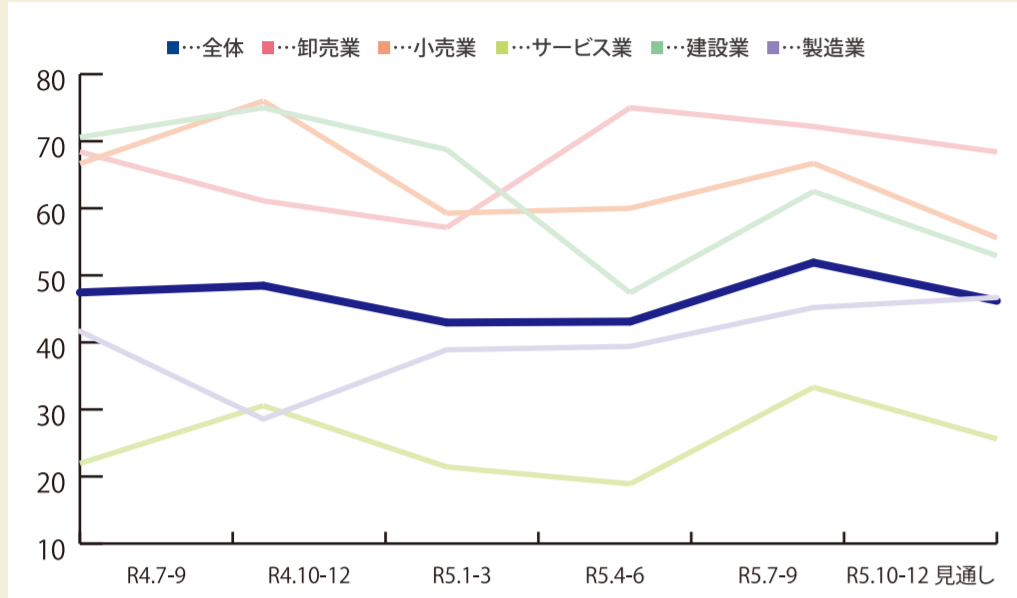
	R4.7-9	R4.10-12	R5.1-3	R5.4-6	R5.7-9	R5.10-12 見通し
全体	▲21.6	▲29.7	▲26.9	▲28.8	▲23.7	▲29.5
卸売業	▲10.5	▲35.3	▲42.9	▲25.0	▲26.3	▲31.6
小売業	0.0	▲12.0	▲11.1	▲4.0	▲3.7	▲7.4
サービス業	▲23.8	▲27.8	▲29.3	▲28.9	▲33.3	▲46.2
建設業	▲58.8	▲62.5	▲43.8	▲45.0	▲56.3	▲52.9
製造業	▲21.6	▲26.5	▲22.2	▲39.4	▲10.0	▲13.3



調査項目別 DI の推移②

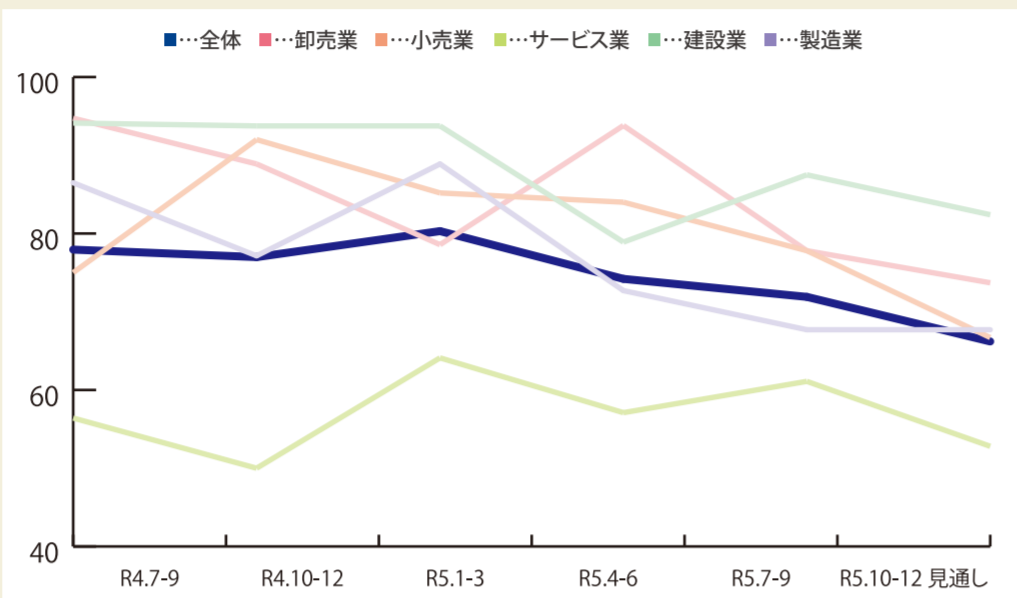
販売価格(上昇-下落)

	R4.7-9	R4.10-12	R5.1-3	R5.4-6	R5.7-9	R5.10-12 見通し
全体	47.4	48.5	43.0	43.1	51.9	46.2
卸売業	68.4	61.1	57.1	75.0	72.2	68.4
小売業	66.7	76.0	59.3	60.0	66.7	55.6
サービス業	22.0	30.6	21.4	18.9	33.3	25.6
建設業	70.6	75.0	68.8	47.4	62.5	52.9
製造業	41.7	28.6	38.9	39.4	45.2	46.7



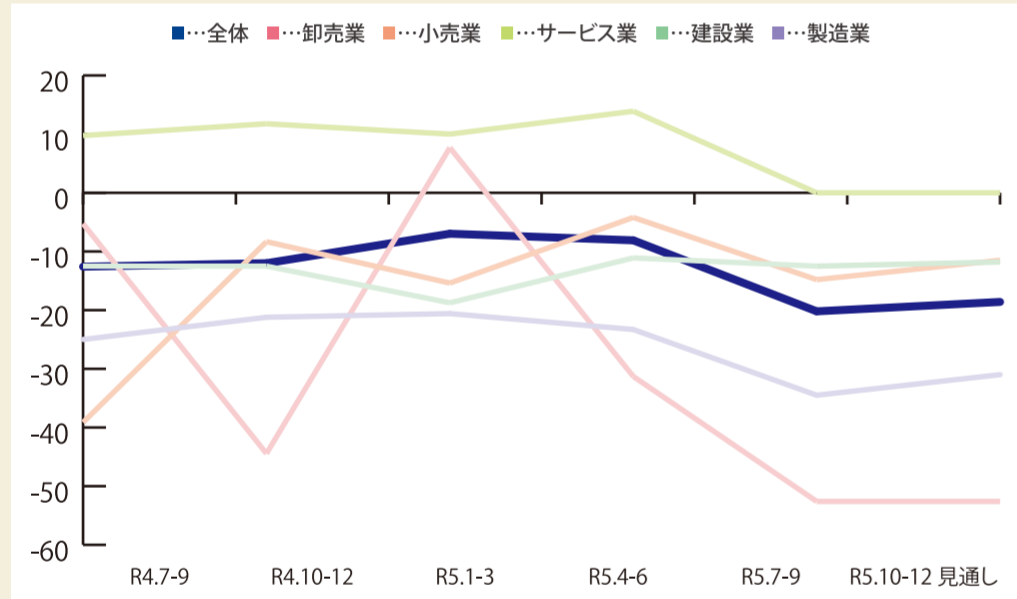
仕入価格(上昇-下落)

	R4.7-9	R4.10-12	R5.1-3	R5.4-6	R5.7-9	R5.10-12 見通し
全体	77.9	77.0	80.3	74.2	71.9	66.2
卸売業	94.7	88.9	78.6	93.8	77.8	73.7
小売業	75.0	92.0	85.2	84.0	77.8	66.7
サービス業	56.4	50.0	64.1	57.1	61.1	52.8
建設業	94.1	93.8	93.8	78.9	87.5	82.4
製造業	86.5	77.1	88.9	72.7	67.7	67.7



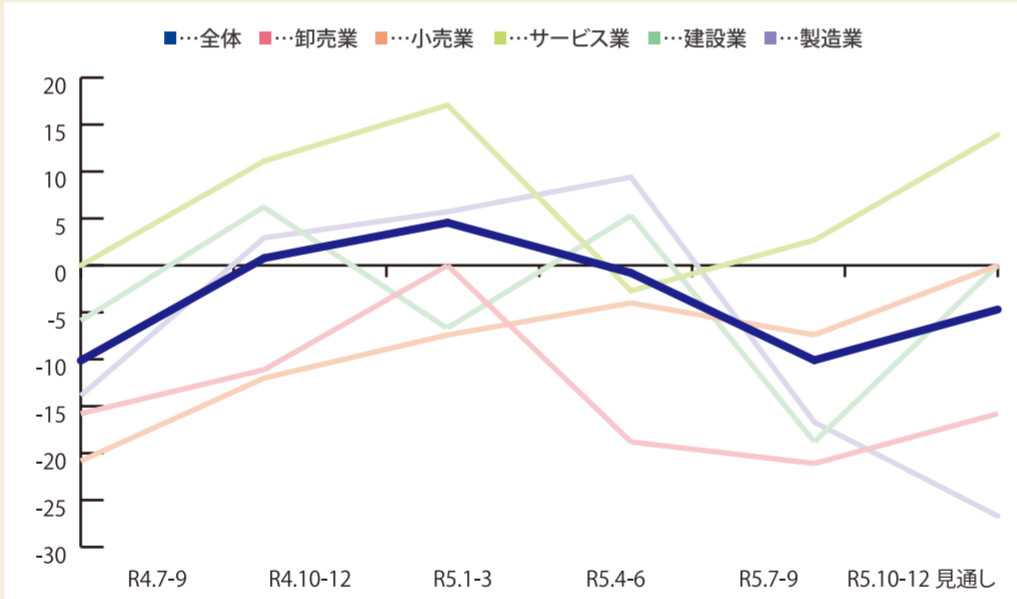
業界動向(好転-悪化)

	R4.7-9	R4.10-12	R5.1-3	R5.4-6	R5.7-9	R5.10-12 見通し
全体	▲12.6	▲12.0	▲7.0	▲8.1	▲20.2	▲18.6
卸売業	▲5.3	▲44.4	7.7	▲31.3	▲52.6	▲52.6
小売業	▲39.1	▲8.3	▲15.4	▲4.2	▲14.8	▲11.5
サービス業	9.8	11.8	10.0	13.9	0.0	0.0
建設業	▲12.5	▲12.5	▲18.8	▲11.1	▲12.5	▲11.8
製造業	▲25.0	▲21.2	▲20.6	▲23.3	▲34.5	▲31.0



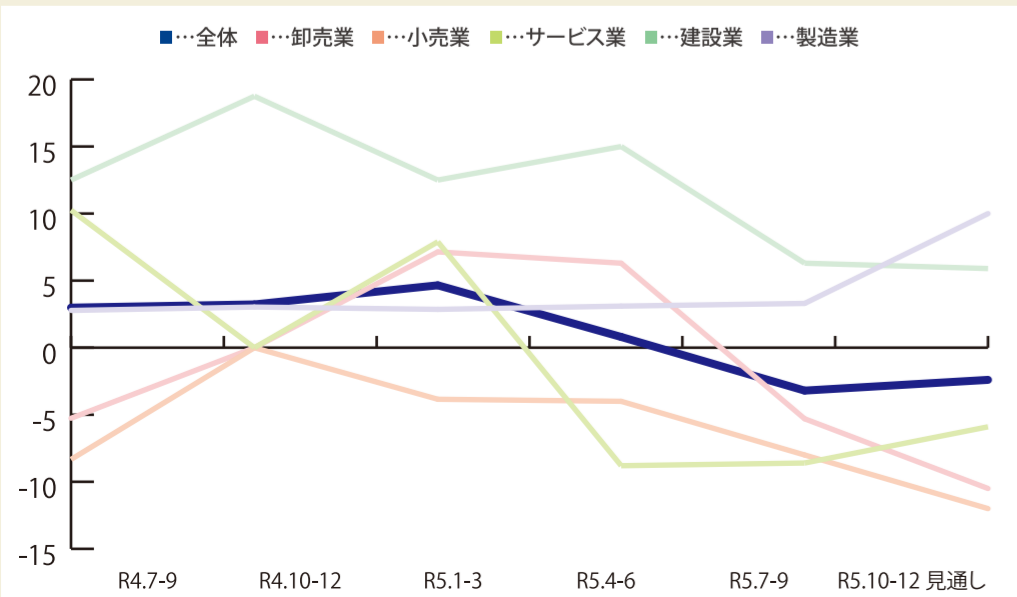
取引問合せ(活発-低調)

	R4.7-9	R4.10-12	R5.1-3	R5.4-6	R5.7-9	R5.10-12 見通し
全体	▲10.1	0.8	4.5	▲0.8	▲10.1	▲4.7
卸売業	▲15.8	▲11.1	0.0	▲18.8	▲21.1	▲15.8
小売業	▲20.8	▲12.0	▲7.4	▲4.0	▲7.4	0.0
サービス業	0.0	11.1	17.1	▲2.7	2.7	13.9
建設業	▲5.9	6.3	▲6.7	5.3	▲18.8	0.0
製造業	▲13.9	2.9	5.7	9.4	▲16.7	▲26.7



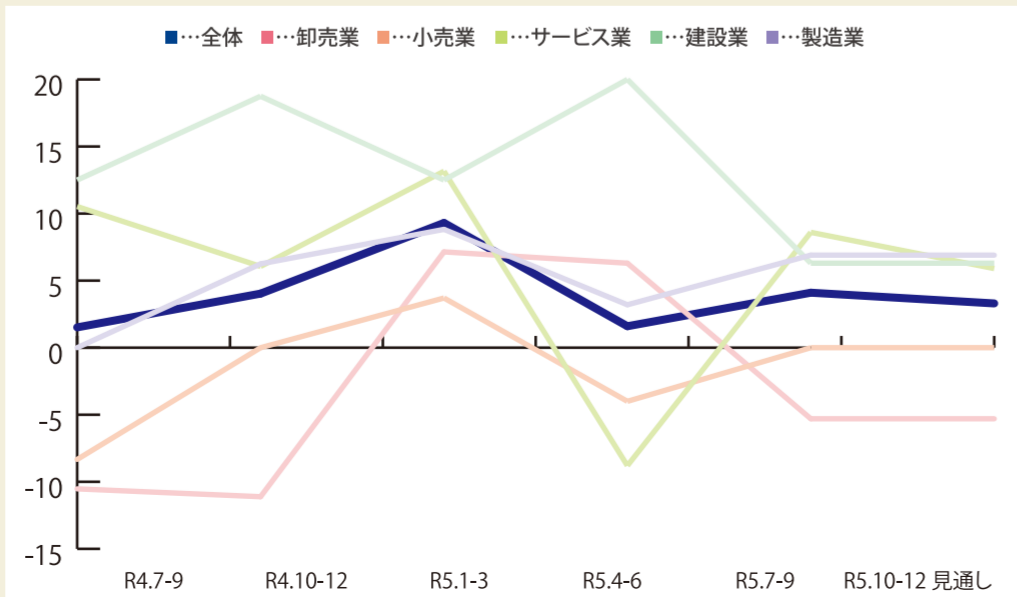
長期資金借入難度(容易-困難)

	R4.7-9	R4.10-12	R5.1-3	R5.4-6	R5.7-9	R5.10-12 見通し
全体	3.0	3.2	4.7	0.8	▲3.2	▲2.4
卸売業	▲5.3	0.0	7.1	6.3	▲5.3	▲10.5
小売業	▲8.3	0.0	▲3.8	▲4.0	▲8.0	▲12.0
サービス業	10.3	0.0	7.9	▲8.8	▲8.6	▲5.9
建設業	12.5	18.8	12.5	15.0	6.3	5.9
製造業	2.8	3.0	2.9	3.1	3.3	10.0



短期資金借入難度(容易-困難)

	R4.7-9	R4.10-12	R5.1-3	R5.4-6	R5.7-9	R5.10-12 見通し
全体	1.5	4.0	9.3	1.6	4.1	3.3
卸売業	▲10.5	▲11.1	7.1	6.3	▲5.3	▲5.3
小売業	▲8.3	0.0	3.7	▲4.0	0.0	0.0
サービス業	10.5	6.1	13.2	▲8.8	8.6	5.9
建設業	12.5	18.8	12.5	20.0	6.3	6.3
製造業	0.0	6.3	8.8	3.2	6.9	6.9



その他業種別自由意見

	好転👍	悪化👎
卸売業	<ul style="list-style-type: none"> 特定のお客様の設備投資。 販売価格の上昇に伴う利益額の上昇。(ただし少々) 仕入価格の上昇に伴い、売上が徐々にではあるが上昇している。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ後お金の回し方、使い方の意識が変わった。 多くのお客様で工場の稼働が低下した。 ガソリン代等の上昇分や仕入の原価分の上昇分を売上に転嫁は難しい。 仕入先の事業譲渡又は廃業により商品の仕入が困難となってくる。 仕入先からの値上げ要請は日々大きくなっている。政府にはまず円安への対策をしっかりとやってほしい。
小売業	<ul style="list-style-type: none"> ふるさと納税がはやい時期から好調推移。 喫茶の面積拡大で売上の増加。 	<ul style="list-style-type: none"> 暑い日が続く、売上が低下。仕入価格の上昇も続いている。 原材料や光熱費、ガソリン代等の値上げが際限なく続く中、インボイス制度導入に伴う価格の更なる値上げや事務作業の不必要な煩雑化、2024年問題が要因と思われる運輸業界におけるサービス能力の低下等・経済状況については悪化要因しかない。 県内外広範囲に車を使うため、ガソリン代の上昇は痛い。 価格の上昇は店舗、直販においてもだいぶ影響がでている。 全体的に物販系が不調 仕入単価が高くなり、消費者の方の購入が少なくなった。 猛暑で不良品が多く、価格が上昇する。 物価が上昇し、衣類に回すお金がない消費者の方が多くなってきた。
サービス業	<ul style="list-style-type: none"> 8月のお盆が台風の為、前期の売上を下回ったがそれを除けば微増で推移した。 コロナ緩和により。 客単価がupしたため。 コロナの影響が徐々に納まり、対面でのコミュニケーションの場、少しずつ従来の日常の方に近くなり、依頼、受注等の問い合わせが増えていように思う。 前期は低迷していたが、今期は好調。引き続き対応していきたいと思っています。 コロナの影響が無くなった。 最低賃金があがり、動き方や手当等について改めて見なおす機会がきたと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> インフレに対する対応が比較的難しいので、今後どのように対応するか苦慮しています。 世間全体でインテリア商品の購買の落ち込み。 市場価格上昇は、直接的影響はまだ少ないが、取引先の業績悪化を受けての値引き要請など間接的影響が生じている。当面価格上昇は続くものと思われる。対応として販売価格への転嫁がなされるべきと考えるが、長年のデフレ心理から抵抗感が残っている。 乗務員不足。 ウッドショックもコロナ同様、落ち着きを取り戻しつつあるが建築資材、物価の高騰の影響で建設費の全体の価格上昇は凄まじく、予算内に着地することが困難である。
建設業	<ul style="list-style-type: none"> 合理化による営業活動の拡大。 価格転嫁が比較的容易になった。 一時コロナの影響で庭や外構を依頼されることが増えましたが、それも落ち着きました。 経営体質の強化の為、採算性の良い(高い)サービスに切り替えている。建設で言えば追加価格の高い工事をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 材料の高騰。 材料値上げに追従できていない。 南から業者が入ってきて、同業者があふれているように感じる。よって価格破壊が起きている。 仕入単価上昇分の販売単価への転嫁を100%したとしても、受注出来なければ元も子もない。値引きをせざるを得ない。
製造業	<ul style="list-style-type: none"> お誘いが増えるなど社会全般においては景気が良くなってきたと感じる。 足下9月までは受注増と販売価格上昇で採算が改善している。今後も付加価値の高い商品の投入を計画している。 飲食店の活気回復やイベントの再開による商品の発信機会の増加により今後や売上増、販路拡大に向かうと見込んでいる。 新型コロナが5類になったことで、行動制限もやわらぎ、人々の生活もコロナ前に近づいて消費が戻ってきつつあるため、低迷している和装業界も製品づくりのための発注が増えてきているように感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> 販売先が夏に集中しすぎた為、売上が減少。 自動車メーカーの新車開発が低調。 当産地の業界は悪化の一途をたどっており、取り残された感が大きい。価格を上げたら入荷量が激減した。 とまらない円安と原料、その他資材の高騰に対して経費の削減と販売価格の転嫁をすすめてきたが上値が重くなってきた。賃金アップの分までなかなか採算改善がすすまない。 数量は数年比若干マイナスで、利益率も悪化している。 原材料が円安のために一段と値上がってきている。また、最低賃金の引き上げによる人件費の上昇や光熱費の高騰も併せて、販売単価が一気に転嫁することはなかなか難しく、転嫁が十分出来るまでの資金繰りが厳しい状況である。